



**Pick Up News** 5号館の解体工事が徐々に目に見える形になってきました。周囲は仮囲いで覆われ、徐々に足場も組まれています。どのように建物が建っていくか、ということを目にする機会は多いと思いますが、これだけの規模の建物をどのように壊していくか、という過程を間近で感じ、また味わえる機会はそうありません。建物解体工事では安全性と環境配慮が最も重要となる課題でしょう。最新の技術を駆使しながら解体していくプロセスを間近で味わいたいと思います。さて学生の皆さんは長い夏休み期間の真只中ですが、どのように過ごしているのでしょうか。旅行をしたり、実家でのおんぶりしたり、友人と過ごしたりと普段できないことを思う存分やっていることかと思えます。研究や設計活動を進めている人、企業インターンシップやオープンデスクに参加するなど、自分の進路検討のために時間を費やしている人も多いことと思います。いずれにしても、大学生時代の休みの時間ほど貴重で価値のあるものではありません。・・・と、いうことは卒業して社会に出てから誰もが感じる思いです。休みも残り3週間。リフレッシュして後期のスタートが切れるように、それぞれの時間を有意義に過ごしてください。8/29現在、台風10号が日本列島を縦断する見込み。大きな被害が出ないことを祈るばかりです。

**大学院特集です。大学院生を通して大学の魅力を感じて下さい。**

1. 大学院を志した理由
2. 進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想下さい。
4. 学部生へのメッセージ

1. 大学院（修士）の2年間で実際のまちにより多く足を運んで、まちや建築の本質・実体を見る目を養い、コンサルタント関連の職に就いて学んだことを活かしたいという考えがありました。
2. 3年生の夏から秋です。
3. 学部の時よりも、各分野のさらに専門的な情報や実態についてご教授いただく機会が増えたことや、学んだことに対してプレゼンテーション資料を制作してアウトプットする機会があり、身になる学びに繋がっていると感じます。
4. 修士の2年間は学部比べて見て、聞いて、触れて、制作して、発言するといった点で多くの経験が出来る実感できるほど有意義なものになることは間違いなくと思うので、少しでも興味があれば先生方にふらっと聞いてみることをお勧めします。（伊藤裕紀）

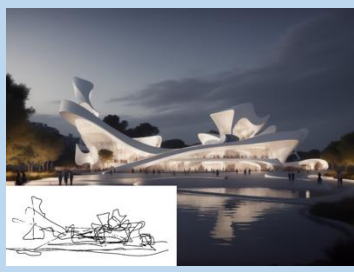
1. 学部だけでは満足できなかったから。
2. 高校2年生
3. 学部と比較して自由な時間が増え、周りの環境も非常に良いため、有意義な時間を過ごしている。
4. 大学院でしか学べないことや経験できないことも多くあります。少しでも興味があるのならば、進学もひとつの候補としてぜひ考えていただきたいです。（塙龍也）

## 興味・関心の深化、さらなる知識・技術の修得、社会が求めるスキルの修得、将来の進路選択の幅拡充、自己実現のステップ 学部卒業後の進路として大学院の選択

1. 自分のなりたい将来像の過程において、最善で必要だと思ったから。学び、建築、設計が好きだから。自分がどう社会に貢献できるか深く考える時間が欲しかったから。
2. 大学1年生の秋
3. 進学して後悔していません、そして充実しています。大学院はいくらでも自分で忙しくできます。学びたいこと、やりたいことの取捨選択ばかりです。専門性と自律をより洗練できる場所であるとも感じているところです。そして「専門」の建築を学び深めることは社会問題を知ることに繋がると感じています。その先で、自分が社会に出て役に立ちたいこと、たとえ微力でも信念を持って貢献したいと思う場所を考えられると思います。私は、奨学金制度と両親によって進学を叶えられ、今学ぶことができています。大学院に進学して一層感じることが「感謝」と「自分と向き合うこと」に尽きます。これからも知った気にならずに絶えず吸収していきたいです。
4. 今、どれくらい自分と向き合っていますか？建築の何がたのしいですか？憤りはありますか？自問自答してみてください。1年生、まだ話したことがない同級生、先輩、先生、場所、建築いろんなものと出会うといいかもしれません。たのしむことに勇気を持つこと、挑戦すること、継続すること。2年生、いちばん課題大変かと思えます。目の前のことをやるからこそ、次が見えてくる時期です。一つ一つ焦らず休まず踏ん張りときかもしれません。3年生はゼミ配属や進路で悩むかもしれません。忘れてはいけないことは自分で決めることです。そうすれば多少の苦労はあれど、卒業する頃には笑顔だと思います。4年生、集大成。卒業するとき、どんな自分でいたいか想像するといいかもしれません。偉そうなことを書いて本当はすみません。6号館3階院生室でいつでも待っています、一緒に頑張りましょう！（秋葉美緒）

春季推薦は奨学金も得られます。進路の一つとして早めに意識するとよいでしょう。

**Pick Up Lab. 曹研究室**は、建築の未来を切り拓く最先端の研究に取り組んでいます。現在、修士2年生1名と4年生9名が在籍し、和気あいあいとした雰囲気の中で日々研究に励んでいます。最近の研究テーマは多岐にわたり、AIを活用したパース作成、木材割裂破壊メカニズムの解明、ドローンの自律飛行技術の開発などが挙げられます。これらのテーマを通じて、建築の新たな可能性を探求しています。研究室では、自由な発想と活発な議論を大切にしており、学生一人ひとりが自身の興味関心に基づいて研究を進められる環境を整えています。また、先輩後輩の垣根を越えた交流も盛んで、互いに刺激し合いながら成長しています。



スケッチからパースへの自動生成



5号館旧研究室の風景



3年 大石 実優 さん  
白石高校 出身

**Pick Up Student** 私は普通科高校出身で、建築に関する専門的な勉強をしていなかったため、大学に入学してから始めは不安でした。しかし、周りの友達が工業高校出身だったこともあり、専門的な講義では友達に助けをもらい、私は普通科目を友達に教えることで、得意分野でお互いを支え合うことができました。また、大学の講義を通してさまざまな建築の分野があるということを知りました。今では具体的に設備設計の仕事に興味を持っています。三年後期では研究室に配属されるので、さらに専門的な分野を学ぶことになると思います。研究室に配属されてからは自分の意欲次第で研究や生活の質が高まると思うので、常に意欲を持って勉学に励みたいと思います。



2年 佐藤 菜太 さん  
山形工業高校 出身

**Pick Up Student** 前期を振り返ると1年生の時より授業が高度になり、アルバイトや資格勉強との両立が難しくと感じることが多くなりました。特に専門科目では、複数の課題を短い期間でやらなければいけなく、自分の計画性の甘さや力不足を日々痛感しています。ですが、学びを得ることはとても楽しく、それをモチベーションに日々励んでいます。そんな日々の中で1年前の自分と比べて、さらに成長したと感じることも多くありました。新しいの学びの中で自分にしかない強みを知り、それをさらに伸ばす方法を見つけることができました。また、来年の二級建築士の資格の取得を目指して、資格勉強も頑張っています。後期も気を抜かず、両立を意識しながらさらに成長していきたいです。